

英語科学習指導案

日 時 令和3年11月2日(火)
学 級 北上市立飯豊中学校
1年A組 26名(男子12名、女子14名)
授業者 教諭 小川 晴香

1 単元名 PROGRAM 7 Research on Australia (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1)

2 単元について

(1) 単元の位置付けと扱う教材について

本単元はオーストラリアのことが話題に取り上げられている。一般的にオーストラリアといえばカンガルーやコアラ、エアーズロックが有名であるが、それ以外の現地で有名とされているものやオーストラリアの人々の生活習慣については案外知られていない。また、オーストラリアはサマータイムが導入されており、時期によって日本との時差が異なり、南半球に位置するために季節が正反対であることなど日本との違いという点に着目しただけでも興味深い国である。このような日本との違いに触れさせながら、オーストラリアへの興味を高めさせるとともに、教科書の内容から理解したり、生徒自らオーストラリアについて調べさせたりして得た情報を整理させ、オーストラリアの魅力について表現させたいと考える。

言語材料は、学習指導要領の内容(1)英語の特徴やきまりに関する事項ーエ 文、文構造及び文法事項(イ)文構造ーe (a) 「There + be 動詞 + 〜」が扱われている。文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、本単元の目標を達成する上での必要性や有用性を実感させた上でその知識を活用させたり、繰り返し使用させたりすることで文構造について気づきを促すなど、単元のゴールとなる言語活動と関連付けた指導をしたい。

(2) 単元と生徒との関わり

生徒はこれまでの英語学習や他教科での学習等を通して、世界には日本と異なる様々な言語や伝統文化、習慣、歴史、地理などがあることを理解している。また、どのような国や地域が英語を母国語としているかを知っている生徒は多い。しかし、その英語を母国語とする国や地域の文化や習慣などがどのようなものなのか、また、なぜそれらが生まれたのか、日本と関連させて考えるとところまでは至っていない。

本単元で取り上げられているオーストラリアについては、コアラやエアーズロックといった有名なものや、南半球に位置していることを生徒は既に知っていると予想される。しかし、本単元を通してさらにオーストラリアのことを知ることで、その文化の背景にあるものなど生徒たちが知らないオーストラリアの魅力に多く触れることができると考える。

そこで、様々な角度から国際理解を深めるとともに、他国についての興味や関心、理解を深めていけるよう意識して単元を通した指導を行っていきたい。

(3) 単元と本校研究主題との関わり

本単元のゴールの言語活動は、「話すこと(発表)」の領域であり、オーストラリアについて生徒たち自身が調べた情報を観光ポスターにまとめ、それをもとにオーストラリアの魅力を発表させることである。そのために、単元のゴールに向かうまでの過程で、発表の時に生徒が英語で表現できる幅を増やしていきたい。そして、この単元の学習の中で、本校の研究主題である「主体的に学習に取り組む生徒を育てる学習指導～ユニバーサルデザイン視点を取り入れた授業～」の実践を図る。

本単元における主体的に学習に取り組む態度とは、生徒たちが「知りたい」「知ったことを伝えたい」

という気持ちから「伝えたい内容を相手に分かりやすく伝えるためにはどうしたらよいか」、「どのように英語で表現できるか」を思考・判断する姿だと捉える。また、ユニバーサルデザインの視点として、本単元では特に「視覚化」に重点を置く。文法の習得場面で写真を用いてパタンプラクティスを行ったり、第2時と第6時では生徒自身が写真や自作のポスターを用いながら発表をしたりする。ただ単に英語を話すのではなく、写真やポスターなどの視覚的なものを用いることによって、生徒たちの「伝えたい」「聞きたい」といった主体的に活動に取り組む姿が生まれると考えるためである。

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（国立教育政策研究所教育課程研究センター，2020）によると、「話すこと（発表）」の「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準の例として、「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を話そうとしている。」としている。本単元では、日本と異なる文化をもち季節が正反対のオーストラリアが話題に取り上げられているが、オーストラリアについては、教科書内の情報からだけでなく、生徒たち自身が様々な方法で調べることによって得られる情報が多くある。そこには、自国の文化や習慣の違いなど、新しいことを知る喜びや面白さがあると考えられる。自分が興味をもって調べたことを相手に伝えようと主体的に取り組む姿へ結びつけられるような指導を目指したい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

オーストラリアの魅力を相手に伝えるために、教科書の内容から読み取ったことや自分で調べた情報を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

(2) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 「発表」	<p>知① There is [are]や疑問詞howを用いた文の構造を理解している。</p> <p>技② オーストラリアのことについて教科書の内容から読み取ったことや自分で調べた情報を整理し、There is [are]や疑問詞howなどの簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。</p>	<p>オーストラリアの魅力を相手に伝えるために、教科書の内容から読み取ったことや自分で調べた情報を整理し、簡単な語句や文を用いて、話している。</p>	<p>オーストラリアの魅力を相手に伝えるために、教科書の内容から読み取ったことや自分で調べた情報を整理し、簡単な語句や文を用いて、聞き手に配慮しながら主体的に話そうとしている。</p>

4 単元全体を通じた指導と評価の計画【単元構想】

単元全体の追究課題 オーストラリアはどのような国か～観光ポスターを作って魅力を紹介しよう～

記録に残す評価 (●)、指導改善・学習改善に用いる評価 (○)

	学習内容とねらい	評価の観点			評価規準と方法
		知	思	態	
1	単元導入 オーストラリアはどのような国だろう？ ・ 写真を見たり真央とエミリーの話の聞いたりして、本単元で学ぶ内容を確認し、学習意欲を高める。 ・ オーストラリアについて興味をもたせるために、タブレット端末を用いてオーストラリアについて調べる。 ・ 単元のゴールを理解する。 ・ There is [are]を用いた文の構造を理解する。			○	真央とエミリーの対話や教師の話の聞き、本単元で学習することについて捉えようとしている。 【振り返り】
		①			There is [are]～.を用いた文の構造を理解している。
2 本時	Scenes 1 オーストラリアにあるものを説明しよう。 ・ 相手にオーストラリアの魅力を知ってもらうために、There is [are]～.の用法の理解をもとに、オーストラリアにあるものについて説明することができる。				There is [are]～.の用法の理解をもとに、オーストラリアにあるものについて説明することができる。 【観察】
			○	○	簡単な語句や文を用いてオーストラリアにあるものについて伝えようとしている。 【観察、振り返り】
3	Scenes2 交通手段について聞いたり答えたりしよう。 ・ howの疑問文の用法や交通手段についての答え方を理解する。	①			how や byなどを正しく用いて交通手段についてやり取りをすることができている。 【観察】
			○	○	簡単な語句や文を用いて交通手段について伝えようとしている。 【観察、振り返り】
4	Think1 オーストラリアの有名なものは何だろう？ ・ オーストラリアで有名なものの情報を与えるために、健とエミリーの対話文の読み取りや音読する。			○	会話文を読んで、概要や要点を捉えている。 【学習シート】
5	Think2 オーストラリアと日本の違いは何だろう？ ・ オーストラリアと日本の違いに注目しながら健とエミリー、真央の対話を読ませ、オーストラリアに行くとしたら何をしたいか考える。			○	会話文を読んで、概要や要点を捉えている。 【学習シート】
		②	○	○	オーストラリアでやってみたいことについて表現しようとしている。 【学習シート・振り返り】
6	単元のまとめ 観光ガイドを作って紹介しよう！ ・ 単元を通して集めたオーストラリアについての情報や学習した表現を基に、オーストラリアの観光ポスターを作成し、グループ毎にオーストラリアの魅力を紹介（発表）する。 ・ 単元全体の振り返りをする。	① ②	●	●	情報を整理し、学習したことを活かしながらオーストラリアの観光ポスターを作成し、紹介しようとしている。 【活動の様子・発表】

5 本時の指導

(1) ねらい

相手にオーストラリアの魅力を知ってもらうために、There is [are]～.の用法の理解をもとに、オーストラリアにあるものについて説明することができる。

(2) 評価規準

おおむね達成	未達成の生徒への支援・手立て
<p>【知識・技能】 There is [are]～.の用法の理解をもとに、オーストラリアにあるものについて説明することができる。【観察】</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 簡単な語句や文を用いてオーストラリアにあるものについて伝えようとしている。 【観察、振り返り】</p>	<p>新出文型の用法を再度確認したり例文や語句を与えたりし、学習課題に到達できるように支援する。</p>

(3) 指導構想

本時は、単元全体の追究課題である「オーストラリアはどのような国か～観光パンフレットを作って魅力を紹介しよう～」の2時間目（全6時間）である。単元の1時間目にあたる前時では、オーストラリアについて興味をもたせるために、タブレット端末を用いて、オーストラリアについてテーマを限定せずに調べさせた。本時は、新出文型の「There+be 動詞 + ～」の定着を図るために、オーストラリアにあるものについてテーマを限定して調べさせ、英語で説明させる。

導入場面では、前時に学習した文型や、本時の活動で活用できる表現を復習させる。ユニバーサルデザインの「スパイラル化」に関わる部分である。文法はコミュニケーションを支えるものであり、本時及び本単元の目標を達成する上で必要なものであるため、繰り返し使用させることで新出文型の定着を図りたい。

展開場面では、まず初めにタブレット端末を使用してオーストラリアについて個人で調べるが、発表場面で内容が偏ることなく様々な情報に触れられるようにするため、予め調べる地域をグループ内で分ける。調べた後は、情報を整理しながら発表の準備をさせる中で、聞き手に、オーストラリアの知らない魅力を伝えるためにはどうしたらいいか工夫させたい。また、使用する文法の正確さ等についてクラスメイトと教え合ったり高め合ったりしながら活動することを期待したい。発表場面ではタブレット端末を用いて写真を活用させる（UD「視覚化」）。生徒自身がオーストラリアについて調べ、生徒が相互に「伝えたい」「聞きたい」と思いながら主体的に活動に参加できるようにさせたい。

終末には、自分が発表した内容を書かせ、単元のゴールの観光ポスターを用いた発表に役立てたり、正しい文構造が身についているかの評価材料にしたりできるようにする。

全体を通してユニバーサルデザインの視点を取り入れることを意識するとともに、学習した英語の表現を活用し、言語活動に取り組みせながら単元のゴールに向かわせることで、「主体的に学習に取り組む生徒」を育成したい。

(4) 展開

本時：2/6時間

段階	学習内容と学習活動	指導上の留意点 等	UDの視点 ◆評価
導入	1 復習 (パンプラクティス) 2 Oral Introduction 3 学習課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動に繋がられるよう、写真を用いて There is [are]～. の用法を復習させる。 ・オーストラリアの地図を用いて、いくつかの地域があるのか等生徒と英語でやり取りをしながら学習課題の提示に向かう。 	UD《スパイラル化》 既習事項の復習
15分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> オーストラリアの魅力が伝わるように、オーストラリアにあるものを説明しよう。 </div>		UD《焦点化》 本時の学習内容意識付け
展開	4 モデル提示 5 調べる (個人活動) 6 発表準備 7 発表	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルを提示し発表の条件を確認することで、本時で何をするのかゴールのイメージを持たせる。 【条件】：①There is[are] ～.を使う。 ②3文以上 ・発表場面で様々な情報が出るように、調べる地域を振り分け、タブレットPCを用いてオーストラリアについて調べさせる。 ★聞き手にオーストラリアの知らない魅力を伝えるためにはどうしたらいいか工夫させる。 →写真を用いる (視覚化)、情報量 ●隣の人への発表 ★発表内容を高め合わせる。 ●クラスメイトとの交流 ・複数のクラスメイトと発表し合わせる。 ★複数のクラスメイトの発表に触れたところで、途中で使用しているThere is[are] ～.文法の正確さに注目させる。 ●クラスでの発表 ・代表生徒2～3名に発表させる。 ★他の生徒の良かったところを共有させる。 	UD《視覚化》 視覚的に見えるようにする UD《共有化》 他者の異なる情報の共有
25分			<ul style="list-style-type: none"> ◆ There is[are]～.の用法の理解をもとに、オーストラリアにあるものについて説明することができる。[技] ◆ 簡単な語句や文を用いてオーストラリアにあるものについて伝えようとしている。[主体]
終末	8 まとめの書く活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が発表した内容を書かせ、使用した文法の正しさを確認する材料にしたり、単元の最後の観光ポスター作りに活用したりできるようにする。 	UD《共有化》 まとめ振り返りの共有
10分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> Ex.) There is a beautiful place ~ in Australia. It's ~. We can ~ there. </div>		
	9 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題に対する振り返りをさせる。 	

(5) 黒板使用計画

単元全体の追究課題

オーストラリアは
どのような国か

～観光ポスターを作っ
て魅力を紹介しよう～

Today's Menu

1. 復習
2. 導入
3. 調べる
4. 発表
 - ①ペアで
 - ②様々な人と
 - ③クラスで
5. Writing
6. 振り返り

Wednesday, November 2nd

Today's goal

オーストラリアの魅力が伝わるように、オーストラリアにあるものを説明しよう。

There is a _____ in _____.
famous temple
big mountain
delicious food

It's _____.

There are _____ in _____.
famous animals
beautiful places
many World Heritage Sites

They are _____.

